

脳と行動 –脳研究における基礎と応用の融合–

企画・司会 坂本 敏郎（京都橘大学）

演 者 畑 敏道（同志社大学心理学部）
坂井 信之（東北大学大学院文学研究科）
兒玉 隆之（京都橘大学大学院健康科学研究科）

企画趣旨

心理学において確立されてきた行動科学の手法と神経科学、分子生物学の技術が連携することによって、行動を制御する脳内機構が明らかになりつつある。それでもなお、脳と行動の関係は未知な部分が多く、心理学のみならず、様々な領域において今後も研究が進められていく必要がある。

本シンポジウムでは、3名の演者から脳と行動の関係を探索する研究を紹介していただく。ラットを対象とした時間認知の理論的・実証的研究、ヒトを対象とした日常生活の味覚・嗅覚に関わる脳研究、患者を対象として脳機能・身体機能の回復を試みるリハビリテーションの研究である。人間の脳と行動（こころ）の関係を理解するために、動物研究から出発し、その知見を日常場面や医療場面等へ応用していくことは、今後の脳研究にとって重要な課題であると言える。行動科学に基づいた脳研究の基礎と応用の融合について、フロアからも活発な議論をいただければ幸いである。